

ドラッグストアの果たす役割(社会的役割)についての検討の視点

1. 健康寿命の延伸(「日本再興戦略」)

(1) セルフメディケーションの推進

→健康増進・予防や生活支援を担う市場・産業

○『日本再興戦略』(平成25年6月閣議決定)では、「戦略市場創造プラン」のひとつに「国民の『健康寿命』の延伸」が掲げられており、「どこでも簡単にサービスを受けられる仕組みを作り、自己健康管理を進める『セルフメディケーション』等を実現する」とされている。「健康増進・予防や生活支援を担う市場・産業」の創出・育成に向けて、ドラッグストアとして、どのような役割を果たしていくべきか。

2. ドラッグストアの果たすべき役割(案)

(1) 新たなサービス/付加価値の付いたサービスの提供

→在宅調剤サービス

○高齢化社会が進展する中で需要が高まると想定される在宅調剤は、ドラッグストアの貢献が期待される重要分野の一つと考えられるが、持続的な取り組みとしていくために、どのような工夫が必要か。

→自己採血による簡易血液検査

○グレーゾーン解消制度を活用し、薬局などで自己採血による血液の簡易検査(測定)等が、医師のみに認められている「医行為」に該当しないことを確認した。こうした動きの中で、今後、ドラッグストアが健康拠点としてどのような機能を果たしていくことが期待されているのか。

(2) 地域との結びつき

→地域包括ケアシステムとの関係でのドラッグストアの役割

○厚生労働省が進める「地域包括ケアシステム」との関係で、ドラッグストアがどのような役割を果たしていくことが可能か。

→AEDの活用の可能性

○医薬品の専門知識を有する薬剤師、登録販売者の存在を活かし、AEDの活用促進に向けてドラッグストアの果たす役割は大きいのではないか。

(3) リアル店舗を核とした通信販売

→一般用医薬品のインターネット販売

○今年6月から、一般用医薬品について、全てネット販売可能となったが、リアルな店舗を抱えるドラッグストアとして、ネットとリアルを組み合わせるとどのような取組を進めることが効果的か。

(4) ドラッグストアにおける専門性の向上

→専門知識を活かしたドラッグストアの位置づけ

○業態を超えた取組・競争が加速化する中で、ドラッグストアは、薬剤師、登録販売者等の専門知識を活かし、消費者の需要に応えつつ、どのような形で情報発信、商品提供をしていくか。

(5) 高齢化等の進展に伴う課題への対応

→買物弱者対策

○高齢化社会の進行等により、日常の買物が困難になる「買物弱者」の問題が、今後、一層顕在化していくが、生活する上での必需品を多数手がけるドラッグストアにおいて、どのような取組が可能か。

(6) 製・配・販の連携による取組

→返品削減の取組等

○ドラッグストアにおいては、現在、季節商品等を中心に返品が発生するなど、多くのムダが存在しているが、製(メーカー)・配(卸)・販(小売)の連携により、返品削減等のサプライチェーン効率化を実現していく上で、どのような取組が有効と考えられるか。

以上